

図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館

目次

三葛館で英語力アップ!-----	1	発掘！ 知の宝探し-----	5
本ーその選択-----	3	世界を変える本-----	6
読書クラブの思い出-----	4	図書館サポーターズクラブ Lapo 活動報告-----	7
「開架式」のありがたみ-----	5	平成26年度三葛館活動記録-----	8

三葛館で英語力アップ！

保健看護学部 教授・副館長 西村 賀子

保健看護学部の「英語Ⅰ」では多読を行なっている。英語多読とは文字通り、英語の本をたくさん読むことである。たくさん読むと言っても、手当たり次第に行き当たりばったり読むのでは、すぐ嫌になる。超がつくほどやさしいものから始めて、一段ずつゆっくりとレベルを上げて学習を進めていく。最初の一步はまず、イギリスの小学校の8割以上が教科書として採用している“Oxford Reading Tree”というシリーズや、やはりイギリスの多くの小学校の副読本の“Longman Literary Land”というシリーズから始める。ほとんど絵本である。だからといってばかにしてはいけない。「千里の道も一歩から」という。気軽に読めるものからスタートして、段階的に難度を統制した Graded Readers (“Penguin Readers”や“Cambridge English Readers”など)を読む。やがて使用語彙範囲を広げ、総語数を増やし、文法的に複雑なものへと無理なくステップアップしていく。辞書はなるべく引かない、つまらない本はやめる、わからない箇所は推測するなどの原則がある。そして読了後は一冊ごとに語数を記録し、累計が100万語を超えるのが一つの目安である。多ければ多いほど、英語力がつく(読み方にもよるが)。

多読と図書館はどう関係するか。多読を実践するには、相当多数の英語の本が必要である。薄い本を

とっかえひっかえどんどん読んでいくのだから、経済的な余裕がない限り、個人ではやりにくい学習法だ。仮に、話を単純化して1冊1000語の700円の本だけで100万語を達成するとしよう。すると1000冊つまり70万円必要である。そこで、図書館の出番となる。授業に多読を取り入れて以来、三葛館は多読教育をずっと応援してくださっている。今では多読用の英語図書や、多読学習の継続を支援する日本語書籍が一つの書架いっぱいになれるほどの充実ぶりである。じつにありがたいことだ。

筆者と多読との出会いは大学の教養部にさかのぼる。英語の授業中に先生が、「最低2000ページは読まないで外国語ができるようにはなりません」と発言したのがきっかけだった。2000という数字はとても多い気がして、頭がぐらくらした。そのときイメージしたのは、未知の単語がひしめいて辞書を引きまくらないと読めない本だった。そんなの無理、と気落ちしたが、「読むときはなるべく辞書を引かないように」とも言われたので、やさしい本ならできるかもしれないと思った。児童書や推理小説ならやれそうだと、C.S. ルイスの『ナルニア国物語』やアガサ・クリスティーを手にとった。前者はちょうど出たばかりの瀬田貞二の邦訳に夢中だったので、“Puffin Books”で全6巻を読破した。だが、後者は挫折した。vicarなどという語でつまずくとその先に進めなくなり、会話に散りばめられたウィットも理解できず、気がつくやエルキュール・ポアロとミス・マーブルの邦訳の山しかできなかった。

記録するなど思いつきもしなかったので合計何ページ読めたのか、はなはだ心許ない。だが、英語への気おくれのようなものは小さくなったような気がする。3回生になって学部に進んでからは専門の勉強に追われ、辞書と首っ引きでギリシア語テキストや、英語やドイツ語の研究論文も読まねばならず、原書2000ページの目標はいつの間にか忘れてたが、大量のインプットは必要だし有益だと実感していた。

私がかもって授業で実践しているのは「SSS多読方式」と呼ばれるものだが、これと出会ったのはまったく偶然だった。酒井邦秀氏の『どうして英語が使えない?—「学校英語」につける薬』(筑摩書房, 1993年)をたまたま見つけたのがきっかけだった。酒井氏の提唱する多読方式は、学生時代に試みたやり方よりはるかにラクで、誰でも無理なく継続できると確信した。

この学習方法の力強い味方は、多読用書籍を備えた図書館である。多読図書の整備は今あちこちの大学付属図書館や公共図書館で進行中である。とくに外国語学部のある大学は英語や他の外国語の多読用書籍の充実を力を入れているが、和歌山県内の図書館で多読用の英語書籍を計画的に入れてるのはおそらく三葛館だけであろう。英語多読に関する科学的な研究成果はもっかどんどん蓄積されつつあり、多読の効果が数多く報告されている。学生のみなさんが三葛館を十分に活用し、多読をたっぷり楽しみつつ、英語力をしっかり育んでくださることを、心から願う。

「三葛館利用に関するアンケート」ご協力御礼！

2015年6月から10月にかけて三葛キャンパスに在籍中の学部学生、大学院生、専攻科学生、専任教員を対象にアンケート調査を実施しました。回収率は88.2%で426名の方々にご協力いただきました。このアンケートは、三葛館開館以来、初の試みでしたが、おかげさまでみなさまの利用状況やニーズを把握することができました。アンケート結果は、今後の図書館サービス向上のための貴重な資料とさせていただきます。ご協力いただきましたみなさまに心より感謝申し上げます。

本 — その選択

保健看護学部 教授 水越 正人

これまで読んだ本を思い返してみた。

小学校：学校図書館で借りる冊数を競争するように片っ端から読んだ。偉人伝記から科学物まで。

中学校：様々なジャンルの本を読んだ。が、図書館で借りた覚えがない。充実していなかったのだ。

高校：昼の休憩は学校図書館で丸谷才一や中根千枝などの評論や作品、雑誌を読んで過ごした。残念なことに図書館で本を借りた記憶がない。この頃は自宅でゆっくり読書することがなかった（TVや映画を見るのに忙しかった）。では、短時間の昼休憩でどう選択して読んでいたのか？ 実はほとんどが通信添削Z会の国語で出題された文章から本作品に戻り読んでいた。高校2年のとき難解な評論を読んでいて、担任の国語教師にいろいろ質問されたことを思い出す。内容はもう覚えていない。でも、きっかけは別にして、この年代に幅広いジャンルの作家や文体、内容に出会えたことはよかった。

大学以降：当時の大学医学部図書館の蔵書は医学関係がほとんどで、利用したのは医学書だけだった。最も多く借りたのは『ガイトン生理学』の原著、“Textbook of medical physiology” (Arthur C. Guyton, Saunders, 1981)。図書館で一般書を利用することはなく、普段は新しい作家の小説や新書を書店で購入して読むことが多くなった。直木賞、芥川賞は毎年特に選択もせず目を通す。今まで最もめり込む様に読んだのが『邂逅の森』(熊谷達也著、文藝春秋、2004年)、そして2015年話題の『火花』(又吉直樹著、文藝春秋)。

和歌山県立医科大学保健看護学部赴任時に図書館を案内されたときに思った。専門書以外の蔵書が結構ある、借りよう、書店でじっくり読むことを減らすことができるかも。借りている本はまだ決まった領域にとどまっている。でも、最近、専門書を探していて、偶然発見したのが『太一×ケンタロウ 男子ごはんの本』(国分太一、ケンタロウ、M.Co., 角川グループパブリッシング(発売)、2009-2011年)。最近、作れる料理のレパートリーを広くしようとしているところである。その思いでよくみるTV番組、国分太一と栗原心平出演の「男子ごはん」(テレビ東京)の本である。これまでは購入していたが、このような本まで大学図書館で読めるとは感激だ。

他にも読んだことがない、気になる蔵書がいろいろな領域にある。『選択の科学：コロンビア大学ビジネススクール特別講義』(シーナ・アイエンガー著；櫻井祐子訳、文藝春秋、2010年)の中で「選択は人生を切りひらく力になる。わたしたちは選択を行い、そして選択自身がわたしたちを形作る」という文章がある。図書館蔵書の幅広いジャンルの中から本を選択して順に読破していきたい。保健看護学部に来たことで、また新しい自分が形成されることを期待して。

平成27年度保健看護学部卒業生の表彰を行いました！

平成28年2月5日に、在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。

卒業生1人あたりの平均貸出冊数は97冊で、第1位の方の貸出冊数は351冊でした。

三葛館で選んだ本がみなさまの学生時代の自己形成に役立ったことと思います。

これからは社会人として、知識や教養を身につけるためにも引き続き本を利用してほしいと願っています。



読書クラブの思い出

保健看護学部 教授 山口 雅子

かつて愛媛に住んでいた頃、読書クラブに入っていました。読書クラブは、学校のクラブ活動のひとつと思われる方が多いのではないのでしょうか。ところが私の所属していたのは大人の読書クラブです。愛媛県では、図書館が読書クラブを応援しており、「伝えよう読書のよろこび 広げよう感動の輪」をスローガンに活動する読書グループ連絡協議会というものもあり、かつては 1 万人会員がいたそうです。

私の所属していたクラブも 30 年を超える歴史があります。読書クラブでは、まず会員で読みたい本を図書館から配布されるリストから選書します。次に最寄りの図書館で会員の人数分用意された本を代表者が受け取り会員に配布します。会員は定期的に集まり、読後感を語り合います。読み終わった本は取り集め、代表者が図書館に返却するというシステムです。

私の所属していたクラブは、会員 10 名弱で、月 2 回活動があり、3 ヶ月分の本をお借りしていたように思います。日程に合わせ指定図書を読みます。活動日には、会員各位で読後の感想や学びを述べ合うのです。

自分が読んで感銘を受けた本について、人に伝えたいという欲求が生じた経験は皆さんにもあるのではないのでしょうか。しかし、興奮気味に人に話すことは、時には迷惑な話です。その本を読んでいない人とは、本から受けた感動を共感することはできません。

ところが読書クラブでは、会員それぞれが共通の本を読んでいるので、口角泡を飛ばし語り合うことができるのです。「そこは、読み飛ばしていた」と新たな発見があったり、「この人は、こう解釈するのだ」と発言者の人物像が垣間見えたり、「私も同感。そこ、そこよね」と意を強くし、会員の博識、教養に感心します。この時間は楽しく、本好きのおしゃべり好きは、水を得た魚のように生き生きするのです。年代も社会的背景も様々な会員が同じ本について語り合うのですから、視野も観点も広がります。また自分の好きな本に偏った読書から、興味が無い、あるいは苦手と思っていた分野や作家が意外と面白く読め、読書の幅も広がります。

お正月には恒例で万葉集を読みます。万葉集と言えば、万葉集 1250 年記念事業として開催された「万葉のこころを未来へ」シンポジウム in 愛媛に参加し、中西進先生（奈良県立万葉文化館名誉館長）と作家の立松和平さんの講演、上原まりさんの筑前琵琶の演奏を鑑賞しました。谷川俊太郎さんと息子の賢作さんのイベントに参加するなど読書から派生する楽しみもありました。

読書は、ふつうは本を読んで終了ですが、読書クラブに参加するためには、その本に関して考える時間が必要です。本について人に話すことで自分の考えが整理され、より深い本の理解につながります。仲間の意見から自分ひとりでは決して気がつかないであろう新鮮な気づきがあります。自分の発言に対して応答を得ることから、考えが発展します。本を読んでくるという課題をこなす仲間との出会いは、人生のよろこびの一つでしょう。

「開架式」のありがたみ

医学部 教養・医学教育大講座（医療社会科学） 准教授 本郷 正 武

都内に用事がある時、空き時間をめざとく見つけてまで行くのが国立国会図書館（千代田区永田町）である。最初は国会図書館にしか所蔵していない資料の閲覧が目的であったが、すぐにその魅力にとりつかれた。私の「遊び方」の一つに、雑誌のバックナンバーの閲覧がある。現在の国会図書館は、ほとんどが開架式ではなく、端末から電子申請した資料を職員の方が探してきてくれる（感謝）。最初のうちは、自身の研究課題である HIV/AIDS に関する 1980 年代の報道や研究論文を閲覧・複写するのであるが、残りの時間はあくまでも趣味で、スポーツ系雑誌のバックナンバーを数年分斜め読みする。たとえば、今をときめくアスリートたちの学生時代の頃の小さな記事を探したり、格闘技ブームが起こった 1980 年代のプロレス雑誌を眺めたり、今から見返すとなかなか興味深いものがある。

毎月のように国会図書館に通うことはできないので、当然、街の本屋や大学図書館にもお世話になる。こちらには開架式のよさがある。私の場合、実際に手にとって、目次や巻末の参考文献リストを眺めることで、「芋づる式」に資料を検索するヒントを得る。国会図書館のように、あらかじめピンポイントに必要な資料を決め打ちして取り寄せるのでは、想定していなかった重要な資料に出会う機会はかなり狭まる。多少回り道でも、本や雑誌の全体の構成を眺めて、新たな鉱脈を探し出すことも知識を増やす良法であろう。ぜひ機会を見つけて、国会図書館を利用することをお勧めするが、開架式との比較を念頭に置いてみると、開架式のよさも逆に知ることできるであろう。

発掘！ 知の宝探し

医学部 教養・医学教育大講座（数学・統計学） 講師 田 中 晴 喜

私の趣味は図書館巡りである。そう！ 私は、小学生時代から今現在に至るまで図書館には本当にお世話になっている。図書館にて出会った本でおすすめの本を挙げればきりがないため、ここでは自分自身の思い出と図書館の魅力をお伝えしたいと思う。

高校時代、図書館で何気なく目に入り、手にした本が『新編 魔方陣』（大森清美著、富山房、1992年）だった。当時興味があった魔法と数学が合わさったものに思えたのだろう。その本がきっかけとなり独学で魔方陣の勉強をしたのだが、プログラミングで魔方陣を作る方法があり（プログラミングにも興味をもっていたのだ）私には大変受けた。去年和歌山県立医科大学教養・医学教育大講座の公開講座で発表することとなった。興味本位で手にした本が数十年もあとになって紹介することになるとはもちろん想像できなかったし、感慨深いものがあつた。

私にとって図書館は新しい知を見つけ出すエンジンである。キーワードが必要なネットの検索ではできない部分である。いまやネット時代の最盛期であり、情報はほぼすべてインターネットからとなり、研究の分野でもそうである。数学の論文は「MathSciNet」や「ZMATH」などの数学専用のサイトから

探し出し、大半を電子媒体として入手できる。そして電子ファイルの強みは、論文内容を容易に検索できることである。これは残念ながら、書籍では容易にはいかない。しかし図書館は、「知の発見のエンジン」としてもあり続けてほしいと思う。新しい本の出会いから普段手が出せないジャンルを簡単に読むことができ、また自分の世界に没頭できる場所である。三葛館は他と比べて夜遅くまで開館してくれているため学生や教員にとっても大変ありがたい存在になっている。私にとっても幼少期宝探しを楽しんだ気持ちを思い出させてくれる大切な場所である。

世界を変える本

医学部 教養・医学教育大講座（心理学） 講師 石 井 拓

世界の見え方をがらりと変えてしまう本があります。もう元には戻れないような、読んだ後で初めて目が覚めたような感じにさせられます。そんな力を強くもっているのは、たいていかなり真面目そうで敬遠されがちな、哲学書や専門書です。それらは一部の学者だけが読む無味乾燥な本だと思われがちですが、そうではありません。むしろ、自然は、人間は、社会は、時間は、存在は、なぜそのようになっているのだろうという疑問を少しでももつ人であれば、誰にとっても手の届く本です。よく書かれた本を読むのは、とびきり頭のよい友だちが同じ疑問について一緒に語り合ってくれるようなものです。面白くないわけがありません。

例えば、最近では『哲おじさんと学くん』（永井均著、日本経済新聞出版社、2014年）が決定的に世界を変えます。みなさんは、本当はこの世に自分しかいないのではないだろうかと思ったことはないでしょうか。「本当にいるのは私だけですか？」と他人に尋ねてみるのは変ですし、そんなことを考える自分は頭がおかしいのではないかと思ってしまうところですが、この本を読めば少なくとも著者の永井先生も同類、というか大先輩であることが分かります。そして、読み終えたが最後、頭がおかしいかと思っただけの世界が本当の世界になってしまいます。他にも、そんな風に世界を変えてしまう本が、何冊か図書館でも手に取られるのを待っているはずですよ。もしもまだ見つけていなければ、ぜひ探してみてください。

MIKAZURA NOW!

平成 26 年度 利用統計		三葛館の蔵書 2014	
年間開館日	278 日	蔵書冊数	57,356 冊
入館者数	31,352 人	うち洋書	8,748 冊
(1 日平均)	113 人	所蔵雑誌種数	964 種
貸出人数	5,895 人	うち外国語	145 種
図書貸出冊数	15,995 冊	年間受入図書冊数	2,053 冊
視聴覚資料貸出件数	152 点	うち洋書	165 冊
相互利用依頼件数	389 件	年間受入雑誌種数	455 種
相互利用受付件数	615 件	うち外国語	112 種
学外利用者数	687 人		(2015/3/31 現在)

図書館サポーターズクラブ Lapo 平成27年度活動報告

図書館サポーターズクラブ Lapo は、平成23年に結成して以来、学生のみなさんが講義や実習などで図書館をより利用しやすく、また、学生生活の中で図書館をもっと身近なものにしてもらうために、学生の立場からいろんなアイデアを出してきました。今年はさらに幅広くさまざまな企画に取り組みましたので、主な活動に絞ってご報告いたします。

- 医学部・保健看護学部新入生オリエンテーション（4月）

新入生オリエンテーションのお手伝いと図書館サポーターズクラブ Lapo の説明を行いました。

- 和医大周辺ナビ@教員と新入生の交歓会（4月）

今年度初めて開催された「教員と新入生の交歓会」において、学生ホールでパワーポイントを用いて大学周辺のおすすめスポットやお店を紹介しました。また、Lapo オリジナルの周辺マップを配布しました。

- 第1回 Lapo Book Café（6月）

保健看護学部 西村賀子先生をファシリテーターにお招きし、谷川俊太郎の詩「生きる」をテーマに詩の感想や「生きる」とは何かについて語り合いました。

- 図書館三葛館利用に関するアンケート調査（6～10月）

保健看護学部生、専攻科学生、保健看護学研究院院生、医学部1回生と教員を対象にアンケートを行い、三葛館の利用状況や満足度などとともに Lapo の活動についての認識を把握することができました。

- 蔵書点検作業のお手伝い（8月）

蔵書の点検や整理を2日間お手伝いしました。2日目には司書さん企画の「蔵書点検 Thanks イベント：じぶんのことを知ってこれからの考えよう！」を開催してもらい、メンバー各々が自分のこれからの仕事・結婚・出産についてじっくり考える機会となりました。

- 学生企画展示：「Lapo メンバーおススメ！小説あります！」（9月）

学生企画展示 Vol.4 として、Lapo メンバーそれぞれがお薦めしたい小説を紹介文とともに展示しました。

- 課外活動：愛知大学図書館サポーターとの交流会、名古屋大学医学部分館・保健学図書室見学（9月）

他大学との交流や図書館見学を通して、沢山の刺激をいただき これからの活動のきっかけになりました。

- 第2回 Lapo Book Café with ラフターヨガ（11月）

「笑い」をテーマに、「ブックパーティー」という手法で読んで面白かった本を紹介し合った後、保健看護学部 岡本光代先生をお招きし、笑いとヨガの呼吸法を組み合わせた「ラフターヨガ」を行いました。

- 第3回 Lapo Book Café（12月）

医学部と保健看護学部の学生6名で「ブックパーティー」を行い、おすすめの本を紹介し合いました。

- 「Lapo Aroma Café 2015」（三葛館共催）（12月）

今回で3回目となった恒例のイベントで、アロマセラピーについてのレクチャーを行い、参加者にハンドトリートメント体験を行ってもらいました。その後、さらにハンドトリートメントの練習をしながら全員でハーブティーとメンバーお手製のハーブを使ったお菓子を楽しみました。

これからもより多くの皆さんに図書館を利用してもらえるように、三葛館の司書さんにも協力していただきながらメンバー一同、頑張っていきます！

（保健看護学部 3年 西田 有希）

平成26年度（2014年度）三葛館活動記録

- 4月8日 保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
助産学専攻科 新入生オリエンテーション
- 4月10日 医学部 新入生オリエンテーション
保健看護学部 新入生オリエンテーション
第1回保健看護学部図書委員会
- 4月26日 日本看護図書館協会 第24回総会（東京医療保健大学附属世田谷図書館）
- 5月12日 保健看護学研究科「保健看護情報統計学」文献検索講義
- 5月23日 保健看護学部「保健看護研究Ⅰ」文献検索講義
- 7月1日 株式会社サンメディア 第10回学術情報ソリューションセミナー2014 in 大阪
（ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター：大阪）
- 7月10日 附属病院看護部 院内継続教育「看護研究をしようⅠ：文献検索の方法と実際」研修
- 7月23～24日 「看護図書館のぶんけん相談会」開催
- 7月30日 株式会社リコー 図書館システム LIMEDIOSeminar2013（スイスホテル南海大阪）
- 8月4～8日 蔵書点検
- 8月21～22日 日本看護図書館協会 2014年度第47回研究会（昭和大学横浜キャンパス：神奈川）
- 9月5日 系統的レビューのための検索ワークショップ（国立成育医療センター：東京）
- 9月10～11日 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）版元提案説明会（一橋大学：東京）
- 10月1日 第2回保健看護学部図書委員会
- 10月1～3日 国立情報学研究所 平成26年度第4回目録システム講習会（図書コース）
（国立情報学研究所：東京）
- 10月2日 保健看護学研究科「英語文献講読」海外文献検索講義
- 10月15日 保健看護学部「保健看護英語」海外文献検索講義
- 10月18日 日本看護図書館協会 2014年度第8回新人研修会（甲府看護専門学校：山梨）
- 11月6～7日 第16回図書館総合展（パシフィコ横浜：神奈川）
- 11月12日 第3回保健看護学部図書委員会
- 11月13～25日 図書館システムリプレイス作業
- 12月12日 第2回 Lapo Aroma Café（図書館サポーターズクラブ Lapo 共催）
- 2月4日 第4回保健看護学部図書委員会
- 2月6日 平成26年度保健看護学部卒業生ベストリーダー表彰式

平成27年度 展示図書テーマ一覧

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 第59回「この春、図書館でみがく学びのテクニック」 | 第64回「本とでかけよう。」 |
| 第60回「Friends」 | 第65回「夫婦いろいろ」 |
| 第61回「こんにちは、あかちゃん」 | 第66回「“癒し”足りてますか？」 |
| 第62回「Enjoy Sports!」 | 第67回「Hope with books 2016」 |
| 第63回「お年寄りとともに」 | 第68回「あなたにひびくことばの贈りもの」 |

編集後記

2015年、図書館サポーターズクラブ Lapo の協力を得て実施したアンケート調査では、みなさまの三葛館の利用状況やご意見を把握することができました。早速三葛館では、妥当性が高いニーズの実現に向けて動き出した結果、2016年度から定期試験と国家試験前の日曜日を閉館することが決定しました。平日と土曜日同様、たくさんの方のみなさまの日曜日のご利用をお待ちしています。



平成28年3月31日発行

図書館報 みかづら（第19号）

編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館

〒641-0011 和歌山市三葛580番地

TEL (073) 447-2300（代表）

(073) 446-6721（三葛館）

FAX (073) 446-6730（三葛館）

<http://opac.wakayama-med.ac.jp/mikazura/>

